

新科学館の検討状況について

- 1 「新科学館 展示・運営検討会」について
 - (1) 全体会における検討状況等について
 - (2) 部会における検討状況等について

- 2 関係機関との協議、意見聴取等について
 - (1) 企業部会以外の企業へのアプローチ
 - (2) 小学校理科教育研究協議会からの意見聴取
 - (3) 児童文化科学館の利用者（子ども）アンケートの実施
 - (4) 藤田哲也博士に関する展示についての協議
 - (5) プラネタリウムについてのサウンディング調査の実施
 - (6) 地元説明

- 3 フロア構成イメージ（案）について

- 4 目標来館者数について

1 「新科学館 展示・運営検討会」について

(1) 全体会における検討状況等について

① 開催状況

第1回：8月27日、第2回：11月11日、第3回：12月中旬予定

② 主な意見

(展示及びコンセプト)

- 「じっくりと考え続ける」という力を身につけるには、考えるという行為、考えて分かるという経験が大事。
- その場で終わるのではなく、家庭にも続いていくようなコンテンツがよい。
- 北九州らしさが重要。ここでしか体験できないものにしてほしい。
- 科学館は未来に向かうという方向性が博物館とは違うので、コンセプトに入れて欲しい。

(フロア構成)

- バリアフリーに対応した施設としてほしい。
- 入口部分にキッズコーナーを設けるといった集客できる仕掛けが必要。
- スロープ等で展示を見ながら歩いていると、いつの間にか次の階に移動しているというような楽しみながら移動する演出が必要ではないか。
- 子ども連れには、周辺施設も含め食事や休憩スペースの機能が必要。

(教育普及活動)

- 実験教室などは企業のCSRの一環として協力してもらえると良い。
- 放課後の居場所づくりといった視点も考えて良いのではないか。

(プラネタリウム)

- 初期整備費だけではなく、ランニングコストの視点も重要。
- ドーム径もあるが、質で勝負すべきではないか。

(目標来館者)

- いのちのたび博物館の50万人は分かりやすい目安であるが、現状の5倍というのは2年目以降厳しくなるのでは。開業効果で、初年度は多くの来館者があると思うが、2年目以降の落ち込みも考慮すべき。

(博物館群との連携)

- いのちのたび博物館や環境ミュージアムなどの近隣の類似施設との連携をしっかりと考えるべき。展示内容を棲み分け、全館を回って楽しめるようにした方がよい。

(2) 部会における検討状況等について

<企業部会>

① 開催状況

第1回：9月5日、第2回：10月16日、第3回：11月19日

② 検討状況

- 各企業が個別単独に展示物を出展するのではなく、オール北九州で複数企業が連携した形で展示する手法について、継続協議中
- 科学実験教室などの教育普及活動の参加には協力

<大学部会>

① 開催状況

第1回：8月29日、第2回：10月15日、第3回：11月25日予定

② 検討状況

九工大：宇宙工学科の小型人工衛星メインで出展の意向
北九大：複数展示案の提示有。学内調整中
早稲田大：企業連携による展示等を候補に学内調整中
北九高専：公開講座や学校説明会の学外開催で活用意向

<小中高部会>

① 開催状況

第1回：9月5日、第2回：10月11日、第3回：11月26日予定

② 主な意見

(展示)

- 実物やリアルなスケール感で体験でき、「面白い・なぜ」を感じたうえで考え、次のステップへ進むことができてほしい。
- 北九州市ならではの地元との関連性が欲しい。
- スペースワールド跡地であるため、JAXAと連携するなど、宇宙を大切に活動してほしい。
- 学習指導要領を反映することは面白味という意味では必ずしも必要ではない。情報として示す程度で十分ではないか。

(利用拡大)

- 大人向けの講座も行うべき。そのための設備を整えるべき。
- 中高生の団体活動や個人活動の受け皿になって欲しい。
- 展示と教育普及活動のスペースに距離が出てしまうことを懸念。
- 小学校で感じた不思議を中学校で知識をつけてある程度理解ができ、新しい発見が生まれるという流れで、繰り返し段階的に学ぶことで目的意識や関心の深まりを持ちやすくなる。

2 関係機関との協議、意見聴取等について

(1) 企業部会以外の企業へのアプローチ

企業部会以外の企業を個別訪問し、新科学館との連携について検討を依頼。北九州商工会議所の会員企業にも各部会の総会で周知案内。

<現在の状況>

出展検討中：4社、出展可能性あり：1社、検討中：4社

(2) 小学校理科教育研究協議会からの意見聴取

市内小学校教員に新科学館での展示や教育普及活動等について意見聴取。

<主な意見>

(展示)

- 藤田哲也博士の業績や九州工業大学の研究など、北九州市の特色を活かした展示がよい。
- 宇宙や最新技術、気象・防災、大型・体験型等の展示をして欲しい。

(教育普及活動)

- 現在のクラブ活動は継続、充実してほしい。
- 天体望遠鏡など、天文学習に利用できる設備が欲しい。

(3) 児童文化科学館の利用者（子ども）アンケートの実施

【参考資料1】

現館を利用した子どもたちに、「面白かった展示」や「新科学館でして欲しいこと」などの項目でアンケート調査を実施。

- ・ 実施期間：10月1日～20日、回答数：1,138人

<結果のポイント>

- 「理科や科学が好き」85.5%、「(現館は)面白かった」94.6%
- 一方で、故障への不満や施設への不満(暗い、臭い)などの意見もあった。
- 人気の展示アイテムは体を動かすものや体験型が上位3位を占めた。
- 「新科学館でして欲しいこと」では、「学校ではできない実験」、「触ったり体を動かす展示」、「星についてもっと知りたい」といった意見が上がった。

(4) 藤田哲也博士に関する展示についての協議

藤田哲也博士の顕彰展示や竜巻発生装置の方向性について、「藤田哲也博士を顕彰する会」が中心となって設置された懇談会において、議論いただいているところ。年内での意見取りまとめを目途に、これまで2回開催済。

(5) プラネタリウムについてのサウンディング調査の実施

【参考資料2】

プラネタリウムの設備や運営について、民間事業者から広くアイデアを募集。

- ・ 実施期間：9月17日～10月17日、参加事業者：4社

<主な提案内容>

(投影機器)

- 自然で美しい星空を再現する光学式と、4K や 8K 相当の高解像度・高臨場感の映像を投影するデジタル式の組み合わせ。
- 世界最多の 10 億個以上の恒星数を投影する光学式と、風景と星が重なることなく投影可能なデジタル式の組み合わせ。

(ドーム径)

- 西日本最大となり話題性が期待できる直径 30m。

(運営)

- 平日昼間は学習投影、夜間や休日はエンターテインメント番組の投影。
- イオンモールの営業時間に合わせた運営。

(6) 地元説明

八幡東区自治総連合会に基本計画を説明。今後も進捗に応じて逐次報告予定。

- ・ 9月24日三役会、10月1日自治区会長会

3 フロア構成イメージ(案)について

【別紙1】

<1F: 常設展示1・企画展示室>

- 北九州市ポータルゾーン
 - ・ 過去から未来に至る市内企業の技術や製品、生活との関わりを紹介
 - ・ 竜巻発生装置やハザードマップなどで防災を学ぶ防災情報ゾーン
- 小さな子どもも科学に親しみながら楽しめるキッズゾーン

<2F: 常設展示2・3>

- 「感じる」ゾーン
 - ・ 科学現象の不思議を直感的・体感的に体験する展示
- 「考える」ゾーン
 - ・ 「感じる」ゾーンから一歩進んで、科学的視点で現象を考える展示

<3F: プラネタリウム・常設展示4(スペースラウンジ)>

- 宇宙に特化したエリアとして、プラネタリウムを設置するとともに、スペースワールドから受け継いだアポロ司令船や月の石ほか宇宙関連の展示

4 目標来館者数について

【別紙2】

「新館へのリニューアル効果」と「東田地区への移転効果」を考慮し、年間目標来館者数を50万人で設定する方向で考えたい。